

ありがとうのいみ

星川 小羽

「おばあちゃんにしてくれて、ほんとうにありがとう。」
 おばあちゃんは、おおつぶのなみだをぼたぼたながしな
 がら、おかあさんとわたしたちに、こういってこえをかけたそ
 うです。

おたんじょうびがくるたびに、おばあちゃん

「おたんじょうびおめでと。ありがとうね。」

といいます。

おめでとといわれるいみはわかるけれど、どうしてあり
 がと。といわれるのが、ずっとわかりませんでした。

そして、さいきんおかあさんにそのいみをきいてみました。

「あのね。こはねとおうすけがおかあさんのおなかにきた
 と。きから、おかあさんはまいにちはいて、たべものもたべら
 れず、ねむれず、ほんとうにたいへんなおもいをしてきたのだ
 よ。びょういんのせんせいから、もしかしたら、ふたごとし
 てうまれてこられないかもしれないといわれていたのよ。」

とおかあさんはこたえました。

まいにちいっしょにあそんで、けんかもしているおうちや
 んと、いっしょにうまれてこられなかったかもしれないなかつた
 なんて、わたしはめをおおきくしてびっくりしました。

そしてそのとき、わたしはおかあさんにいいました。

「もしかして、おばあちゃんは、わたしとおうちやんがげんき
 にふたりでうまれてきたことに、ありがとうといっているの

かな？」

「おばあさんは、にっこりわらっていました。」

「おばあちゃん、まいにちまいにちしんばいをして、げん
 きにふたりでうまれてきますようにとおいのりをしていたの
 だって。とくいのあみもので、ほうしとおくるみをつたつづつ
 つくって、くびをながくしてまっていたのだって。だからげ
 んきにうまれたふたこのおばあちゃんになれたことがうれし
 くて、おたんじょうびがくるたびに、ありがとうねといってい
 るのじゃないのかな？」

わたしは、なぜかどきどきしました。ことばではうまくせつ
 めいできないけれど、しんぞうのおとがきこえてきそうなく
 らい、どきどきしました。

そして、とてもしあわせなきもちになりました。

おばあちゃんのこと、いままでもだいたすきだったけれど、
 もっともつとすきになりました。

「こはね。おかあさんから、ひとついあんがあります。つ
 ぎのおばあちゃんのおたんじょうびにおめでと。ありがとうがと
 うをいってみたらどうかかな？ おばあちゃん、きつとおおつぶ
 のなみだを、ぼたぼたながしながらよろこぶとおもうよ。」

おかあさんは、わらいながらいいます。

おばあちゃんのよろこぶかおがたのしみです。